



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)

みどりの大使が行く!



2025

ミス日本
みどりの大使

佐塚 ころろ

福島県へ行ってきました

こんにちは。ミス日本みどりの大使の佐塚ころろです。福島県の棚倉町と柳津町での2つの活動に参加しました。どちらも地域の自然と人のあたたかさを実感しました。

棚倉町でのウォーキングイベント

一つ目は、棚倉町で開催された「ふくしま緑の百景歩こう会」のウォーキングイベント



です。「ふくしま緑の百景」は、福島県民からの一般投票により選定された県内のみどり豊かな優れた景観を味わうことのできる場所です。第37回となる今回の舞台は山本不動尊などを巡るコースで、600名もの参加者が集まりました。柔らかな緑に包まれた林道を進んでいくと、葉の揺れる音や緑の香り、そして吹き抜ける風の涼しさが心地よく、普段の生活では味わえない落ち着いた時間となりました。また、みどりの大使を務めてきた影響で、林道を囲むのはスギだけでなくさまざまな広葉樹があることも認識でき、その木々の変化を楽しみながら歩くことができました。

また、中間地点では地元のブルーベリージュースやアップルパイの配布をしました。疲れを癒やす逸品を前に、参加者の皆様一人一人の笑顔が見られてとても嬉しかったです。ゴール地点では苗木の配布が行われており、今回の参加者の方々が受け取った小さな木が、未来の森になるかもしれないと思うと、なんだか特別なつながりが生まれたような気持ちになりました。

柳津町の森の将来を考える

二つ目は、柳津町で開催された森林利活用ビジョンキックオフイベント「たからのやまの日」です。植樹活動とトークセッションに参加しました。

まずは地元の子どもたちと一緒にミズナラの苗木を植樹しました。ミズナラは成長すると沢山のどんぐりを実らせ、森の生態系を支える大切な存在です。そんなミズナラを植えて未来の森を作る作業に子どもたちと一緒に携われたのは本当に貴重な経験であり、同時に人が手を入れた自然への責任を感じる瞬間でもありました。

森林の利活用についてのトークセッションでは、学者の先生や地元の方々将来の町の姿を構想しながら生み出したビジョンについて、私が聞き役となってお話を伺いました。単に「みどりを豊かに」というわけではなく、地元の生活や経済とともに発展・継承していくことが大切です。策定に携



わった学者の先生や林業家、木工関係の方など多様な立場の方がお話をしました。ビジョンに掲げられているいくつかの柱の中で、特に印象的だったのは「大人も子どもみんなで行って、楽しみながら学べる森を作りたい」という将来像でした。「森」という存在が単なる自然の一部ではなく、人の暮らしと深く結びついている姿を具体的にしている、とても大事な目標を掲げていると気づかされました。

地域の人から学ぶ森との向き合い方

棚倉町も柳津町もどちらも違った魅力のある地域でしたが、どちらの地域でも共通して感じたのは、「自然と人との距離がとても近い」ということです。地域の人が、憩いも営みも森と共に生き、森を守り活かしながら暮らしている姿は魅力的に映りました。私も将来はもっと自然や森と向き合って生きたいと感じました。

これからも、こうした活動を通して学んだことや感じたことを、たくさんの方に伝えていきたいと思っています。そして、一人一人が自然と関わることの大切さに気づき、行動につなげていけるように、私自身も発信を続けていきたいです。

